

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2008年第34週
(8月18日～8月24日)

- * 2008年8月27日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「バンコマイシン耐性腸球菌感染症」も掲載しています。

平成20(2008)年8月28日発行

編集・発行

東京都医師会感染症予防検討委員会
東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2008年34週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		31週	32週	33週	34週		34週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							1
	結核	89	88	90	66	2772	304	17352
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
	鳥インフルエンザ (H5N1) **							
三類	コレラ		1			4	1	34
	細菌性赤痢		1		1	39	14	199
	腸管出血性大腸菌感染症	14	31	49	24	222	190	2536
	腸チフス					6	1	31
	パラチフス					5		22
四類	E型肝炎			1		6		32
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1	1			20	6	123
	エキノкокクス症							10
	黄熱							
	オウム病							5
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱					1		2
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					5		121
	デング熱		1	1	1	17	3	48
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						5	40
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症						1	3
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
マラリア					12	1	27	
野兎病							4	
ライム病							3	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	4		1	4	50	10	558	
レプトスピラ症							5	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		31週	32週	33週	34週		34週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	4	7	6	1	124	9	557
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)					23	2	152
	急性脳炎 ***		1			7	1	125
	クリプトスポリジウム症					2		6
	クロイツフェルト・ヤコブ病					11	2	104
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	17	2	80
	後天性免疫不全症候群	13	8	8	12	359	14	980
	ジアルジア症			1		17	1	54
	髄膜炎菌性髄膜炎					2		10
	先天性風しん症候群							1
	梅毒	5	3	3	3	128	4	523
	破傷風		1			4	2	75
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					10	1	55
	風しん		1	3		35	2	266
麻しん	7	5	4	5	1132	26	10677	
2008/8/27集計								

* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

** 2008年5月12日から指定された。

*** ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 66件 肺結核38件、その他28件で、推定感染地は国内63件、韓国1件、中国1件、インドネシア1件。年齢は5歳未満1件、10歳代1件、20歳代10件、30歳代9件、40歳代11件、50歳代11件、60歳代9件、70歳代4件、80歳代8件、90歳代2件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 ソンネで、推定感染地はインド、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。
腸管出血性大腸菌感染症 24件 有症状者18件、無症状病原体保有者6件、血清型・毒素型はO157(VT2)7件、O26(VT1)6件、O157(VT1VT2)5件、O157(VT1)1件、O26(VT2)1件、O103(VT1)1件、O157(型不明)2件、およびO74とO145の重複感染1件(毒素型はVT2だが血清型との対応を確認中)であった。年齢は10歳未満8件(うち5歳未満6件)、10歳代7件、20歳代6件、30歳代1件、50歳代2件であった。O157(VT2)の10歳代1件でHUSの発症があった。

〈四類感染症〉

デング熱 1件 推定感染地はインドで、血清型は1型であった。
レジオネラ症 4件 すべて肺炎型。年齢は40歳代1件、50歳代1件、70歳代2件ですべて男性。推定感染地は都内1件、神奈川県2件、不明1件であった。入浴施設(2件)、下水道での作業、職場のシャワーと関連している可能性がある。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 1件 腸管外アメーバ症で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(性別不明)であった。
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 G群で、血液から菌が分離・同定され、創傷感染が疑われている。第3病日に死亡。
後天性免疫不全症候群 12件 無症候キャリア8件、AIDS 4件で、推定感染地は国内11件、ヨーロッパ1件、推定感染経路はすべて性的接触(同性間8件、異性間3件、両性間1件)であった。
梅毒 3件 早期顕症Ⅱ期2件、無症候梅毒1件で、推定感染地はすべて国内、推定感染経路はすべて性的接触(異性間2件、性別不明1件)であった。
麻しん 5件 麻しん(検査診断例)1件、麻しん(臨床診断例)3件、修飾麻しん(検査診断例)1件で、年齢は5歳未満2件、10歳代1件、20歳代2件であった。麻しん含有ワクチン接種歴は無し2件、1回1件、不明2件であった。

定点把握対象疾患 報告数 2008年34週

定点種別	対象疾患	2008年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		31週	32週	33週	34週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	14	8	10	23	0.16	142	150
	咽頭結膜熱	132	128	62	76	0.54		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	150	95	58	83	0.58		
	感染性胃腸炎	494	455	316	424	2.99		
	水痘	100	79	53	32	0.23		
	手足口病	249	230	142	115	0.81		
	伝染性紅斑	13	11	6	12	0.08		
	突発性発しん	114	113	66	94	0.66		
	百日咳	5	8	1	4	0.03		
	ヘルパンギーナ	709	404	228	193	1.36		
	流行性耳下腺炎	100	89	53	90	0.63		
	不明発しん症 (注1)	21	19	18	14	0.10		
MCLS(川崎病) (注1)	4	1	1	1	0.01			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	4	5	0	2	0.01	276	290
眼科	急性出血性結膜炎	0	1	1	1	0.03	36	39
	流行性角結膜炎	27	23	15	13	0.36		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	0	0	0	2	0.10	21	24
	無菌性髄膜炎	1	1	0	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	3	3	2	7	0.33		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0.00		
2008/8/27集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻疹、成人麻疹は2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・RSウイルス感染症の定点当たり報告数は増加した。過去の同時期と比べて高いレベルにあり、注意が必要である。
- ・咽頭結膜熱の定点当たり報告数は微増した。今後は減少傾向と思われるが、非流行期よりはまだ高いレベルにあるので、引き続き注意が必要である。
- ・手足口病の定点当たり報告数は減少し、過去5年平均の同時期とほぼ同じレベルである。今後も減少傾向と思われるが、非流行期よりはまだ高いレベルにあるので、引き続き注意が必要である。
- ・百日咳の定点当たり報告数はやや増加したが、第22週をピークとして全体的には減少傾向にある。患者実数は4人で、うち20歳以上は1人だった。患者の年齢分布を含め、今後の推移に注意が必要である。
- ・流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加した。過去5年平均の同時期と比較して多く、注意が必要である。
- ・マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加した。前週からの急な変化を示しており、注意が必要である。患者実数は7人で、うち5人が1～3歳であった。

(定点医療機関からのコメント)

渋谷区保健所管内定点医療機関

- ・流行性耳下腺炎の流行が、保育園に拡大しています。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2008年34週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月				9				1	1	3
～11か月	5	2		47		6		40		27
1歳	9	8	1	78	11	34	2	41	1	47
2歳	6	12	9	40	11	24	1	9		35
3歳	2	12	8	30	4	17	2	1		25
4歳	1	12	11	29	1	8	3	1		16
5歳		10	6	33	3	11	3	1		6
6歳		8	11	20	2	3	1		1	12
7歳		3	11	14		5				7
8歳		2	5	12		1				2
9歳		2	1	11		2				1
10～14歳		4	7	43		3				9
15～19歳			2	9						
20～29歳		1	11	49		1			1	3
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	23	76	83	424	32	115	12	94	4	193
先週比	13	14	25	108	-21	-27	6	28	3	-35

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月						
～11か月	1	3				
1歳	3	7				1
2歳	6	1				1
3歳	16					1
4歳	19					
5歳	8	1				1
6歳	6	1				
7歳	5					2
8歳	6	1				
9歳	3					
10～14歳	10					
15～19歳	4		1		1	
20～29歳	3					1
30～39歳				1		4
40～49歳						
50～59歳						1
60～69歳						1
70～79歳				1		
80歳以上						
合計	90	14	1	2	1	13
先週比	37	-4		2		-2

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2008年34週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		2
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		1
20～29歳		2
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計		5

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2008年34週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田								1		
中央区		3	5	2		3				
みなと	3	7	4	22	1	2		6		13
新宿区			2	16	1	3		3		5
文京			2	1	2					4
台東			1	32	1	1		1	1	5
墨田区		7		9						
江東区		2	7	13	2	6		4		10
品川区			5	16		4		3		7
目黒区			1	1		1	2	2		5
大田区	7	1	7	31	1	10	2	6		10
世田谷		5	5	13	2	10	2	7		16
渋谷区		2		9		4		2		6
中野区			1	27	1	3				1
杉並	2	17	3	41		9		5		1
池袋		3		5		1		1		3
北区		1	1	3	1	6	2	4		11
荒川区			2	9	1	1	1	2		6
板橋区				3	1					
練馬区		1		3		4		4		8
足立		5	2	18	4	3		5		7
葛飾区		1	6	13	1	5		2		4
江戸川		1		13		1		2		3
八王子市	10	4	11	40	5	7	1	4	1	2
西多摩		1		3	1	1		3		12
南多摩			1	6	2	6		1	1	4
町田		5	8	16	1	11		8	1	13
多摩立川		1		12		1				2
多摩府中		1	3	2	1	5	2	9		12
多摩小平	1	8	6	45	3	7		8		18
島しょ								1		5
東京都合計	23	76	83	424	32	115	12	94	4	193

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2008年34週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区	1	2				
みなと	1					
新宿区	2					2
文京	4					1
台東	5					
墨田区		1				
江東区						
品川区						
目黒区			1			1
大田区	1	1				2
世田谷	6					
渋谷区	7					
中野区						1
杉並	5	2				
池袋	1					
北区	1					1
荒川区	11	1				
板橋区	5					
練馬区	4			1		2
足立	11	2				1
葛飾区	12	1				
江戸川						
八王子市	5	2				1
西多摩						
南多摩						
町田	2	1		1		
多摩立川						
多摩府中	4	1			1	
多摩小平	2					1
島しょ						

東京都合計	90	14	1	2	1	13
-------	----	----	---	---	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		1
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		1
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		1
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		1
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		1
多摩小平		
島しょ		

東京都合計		5
-------	--	---

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2008年34週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田								0.50		
中央区		1.00	1.67	0.67		1.00				
みなと	0.50	1.17	0.67	3.67	0.17	0.33		1.00		2.17
新宿区			0.33	2.67	0.17	0.50		0.50		0.83
文京			0.67	0.33	0.67					1.33
台東			0.33	10.67	0.33	0.33		0.33	0.33	1.67
墨田区		2.33		3.00						
江東区		0.50	1.75	3.25	0.50	1.50		1.00		2.50
品川区			1.00	3.20		0.80		0.60		1.40
目黒区			0.33	0.33		0.33	0.67	0.67		1.67
大田区	0.78	0.11	0.78	3.44	0.11	1.11	0.22	0.67		1.11
世田谷		0.63	0.63	1.63	0.25	1.25	0.25	0.88		2.00
渋谷区		0.50		2.25		1.00		0.50		1.50
中野区			0.17	4.50	0.17	0.50				0.17
杉並	0.33	2.83	0.50	6.83		1.50		0.83		0.17
池袋		0.75		1.25		0.25		0.25		0.75
北区		0.25	0.25	0.75	0.25	1.50	0.50	1.00		2.75
荒川区			1.00	4.50	0.50	0.50	0.50	1.00		3.00
板橋区				0.50	0.17					
練馬区		0.25		0.75		1.00		1.00		2.00
足立		1.00	0.40	3.60	0.80	0.60		1.00		1.40
葛飾区		0.25	1.50	3.25	0.25	1.25		0.50		1.00
江戸川		0.25		3.25		0.25		0.50		0.75
八王子市	2.50	1.00	2.75	10.00	1.25	1.75	0.25	1.00	0.25	0.50
西多摩										
南多摩			0.33	2.00	0.67	2.00		0.33	0.33	1.33
町田		1.25	2.00	4.00	0.25	2.75		2.00	0.25	3.25
多摩立川		0.20		2.40		0.20				0.40
多摩府中		0.10	0.30	0.20	0.10	0.50	0.20	0.90		1.20
多摩小平	0.17	1.33	1.00	7.50	0.50	1.17		1.33		3.00
島しょ								1.00		5.00

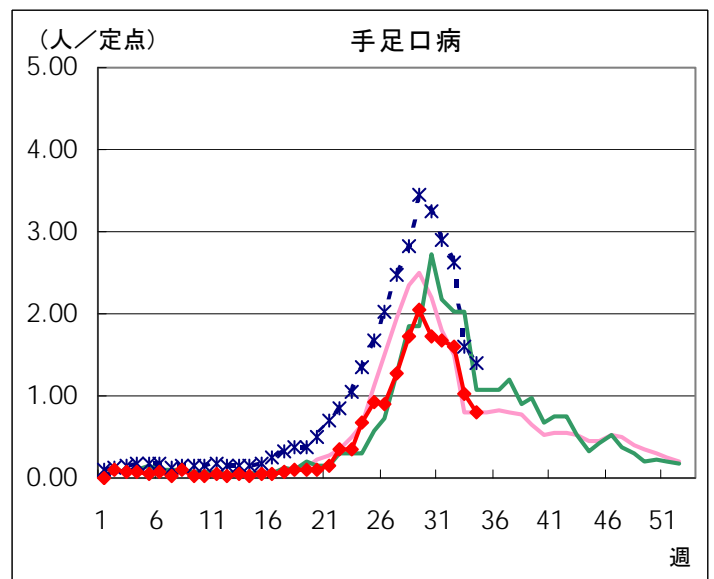
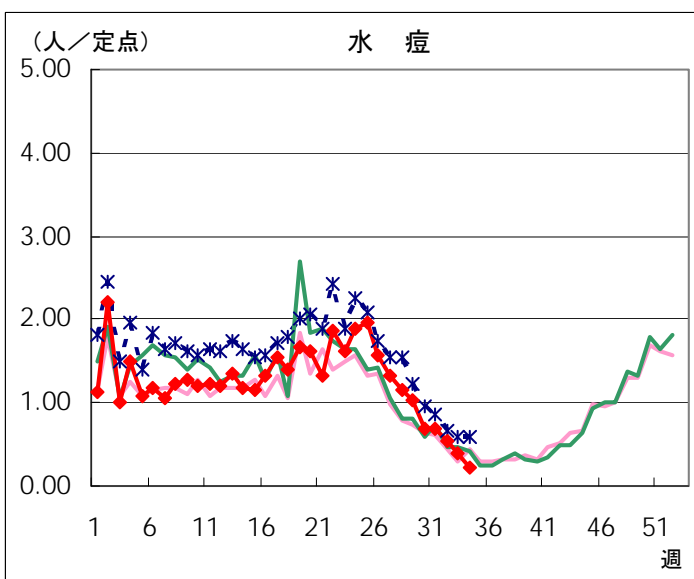
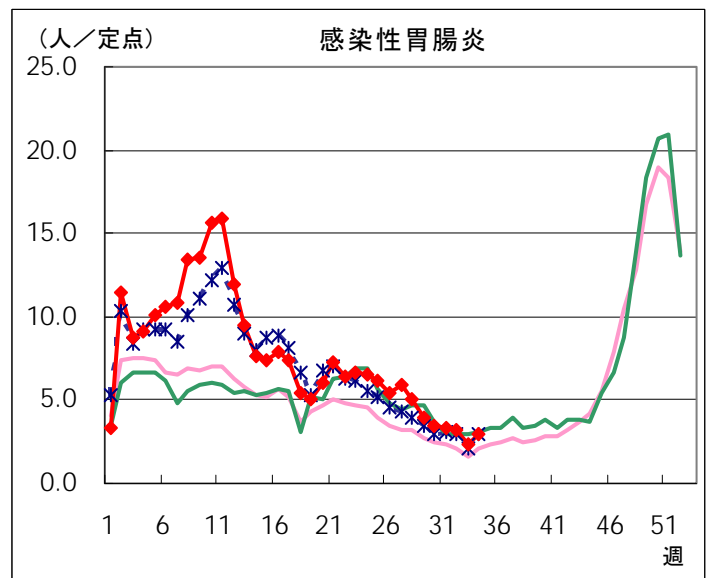
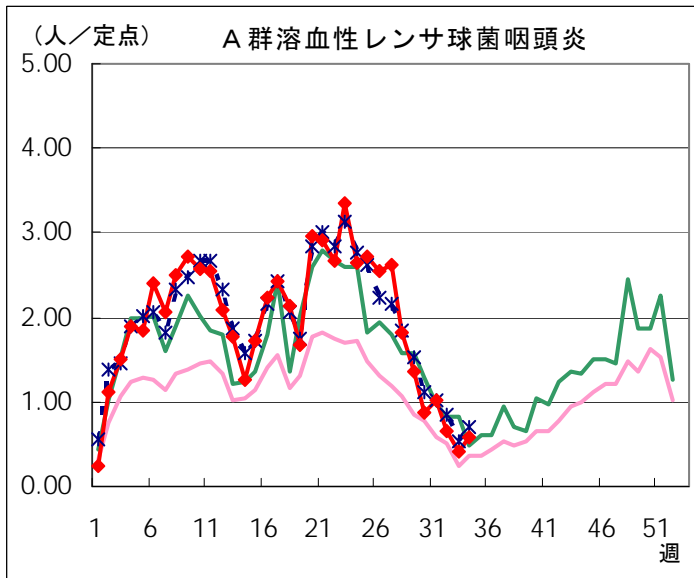
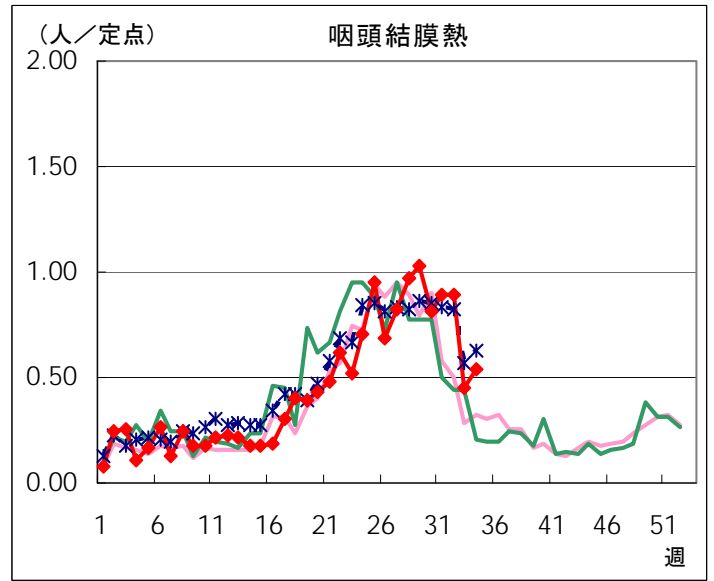
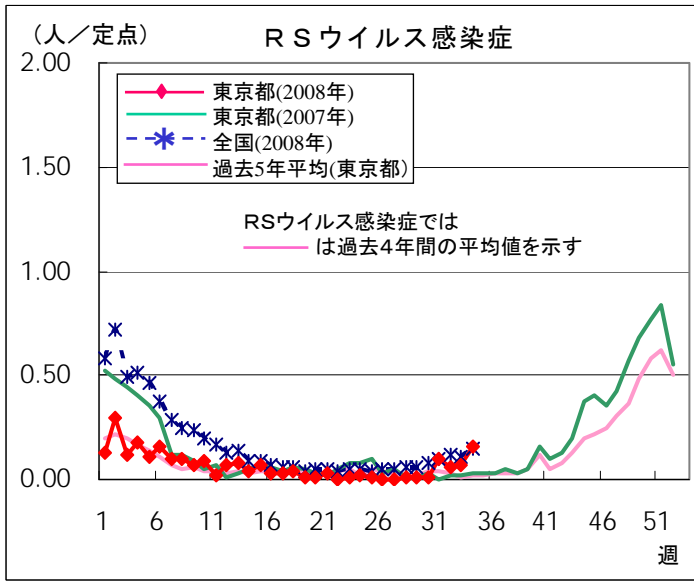
東京都	0.16	0.54	0.58	2.99	0.23	0.81	0.08	0.66	0.03	1.36
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

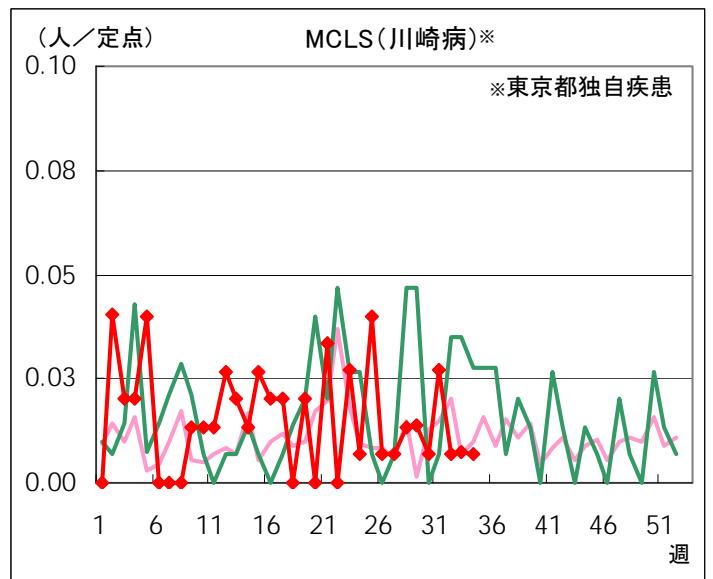
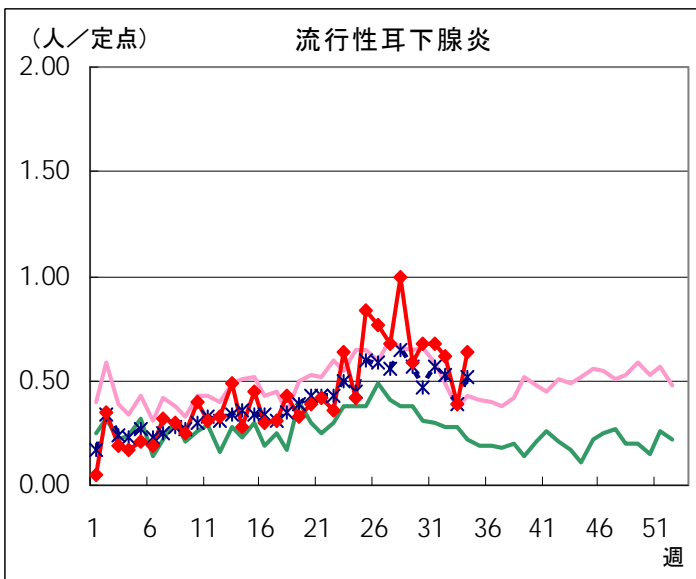
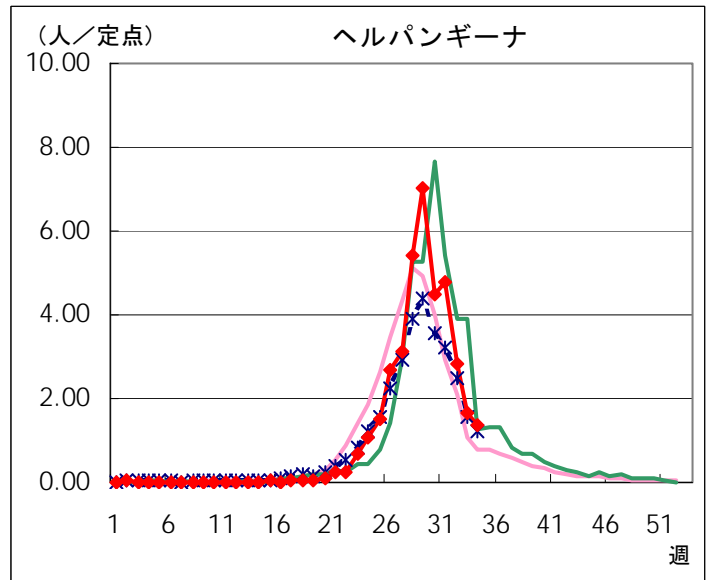
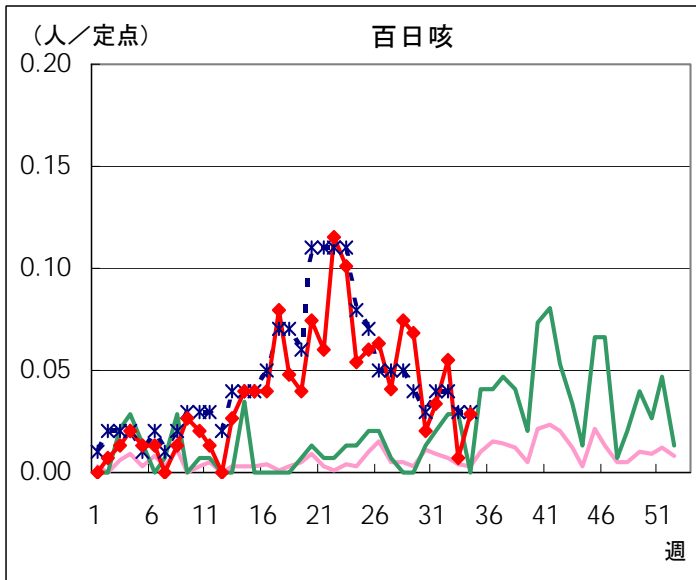
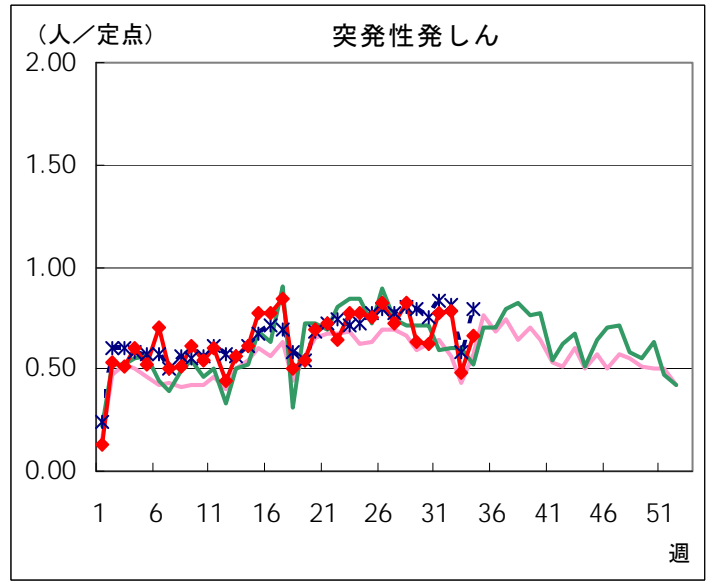
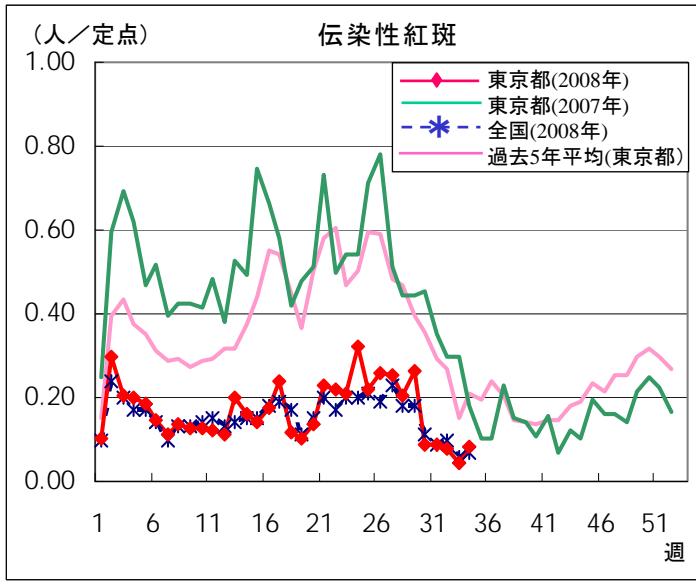
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区	0.33	0.67				
みなと	0.17					
新宿区	0.33					1.00
文京	1.33					1.00
台東	1.67					
墨田区		0.33				
江東区						
品川区						
目黒区			0.33			1.00
大田区	0.11	0.11				1.00
世田谷	0.75					
渋谷区	1.75					
中野区						1.00
杉並	0.83	0.33				
池袋	0.25					
北区	0.25					1.00
荒川区	5.50	0.50				
板橋区	0.83					
練馬区	1.00			0.09		1.00
足立	2.20	0.40				0.50
葛飾区	3.00	0.25				
江戸川						
八王子市	1.25	0.50				1.00
西多摩						
南多摩						
町田	0.50	0.25		0.11		
多摩立川						
多摩府中	0.40	0.10			0.50	
多摩小平	0.33					0.50
島しょ						

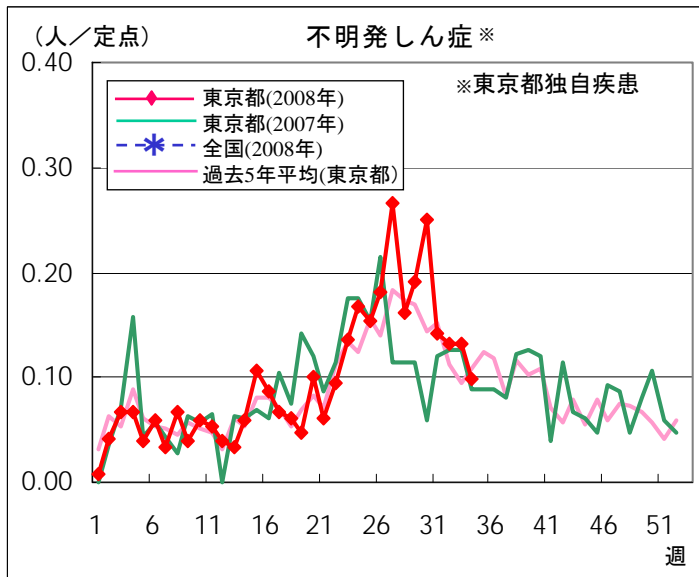
東京都	0.63	0.10	0.01	0.01	0.03	0.36
-----	------	------	------	------	------	------

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2008年34週現在

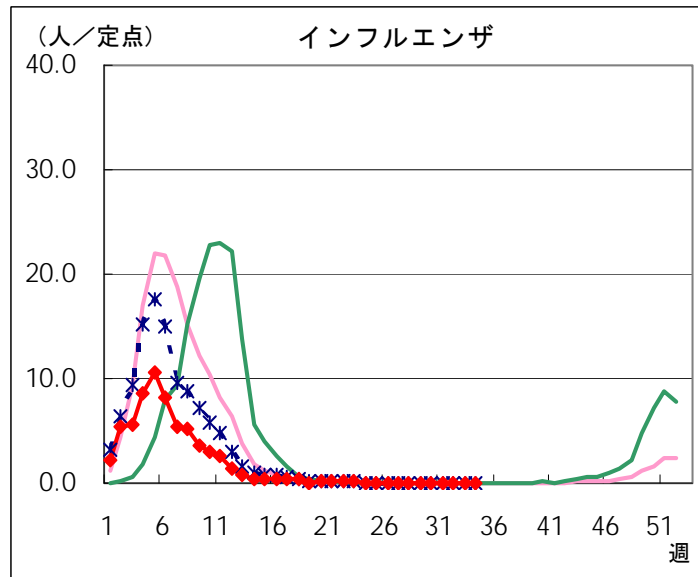
◆ 小児科定点



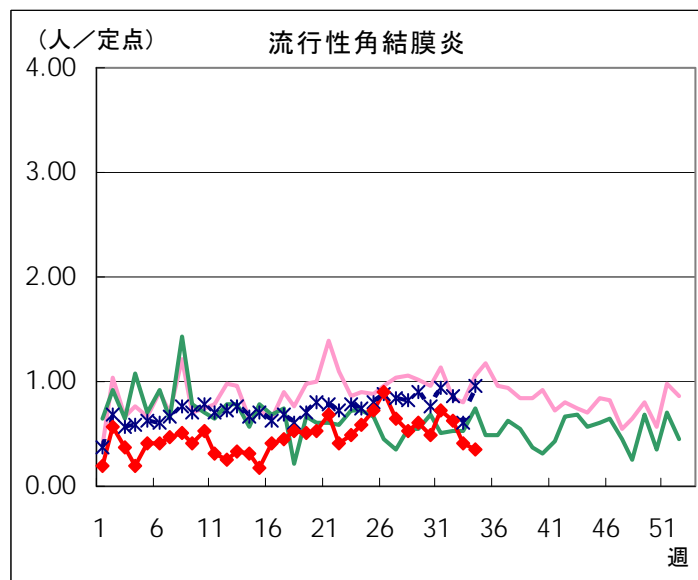
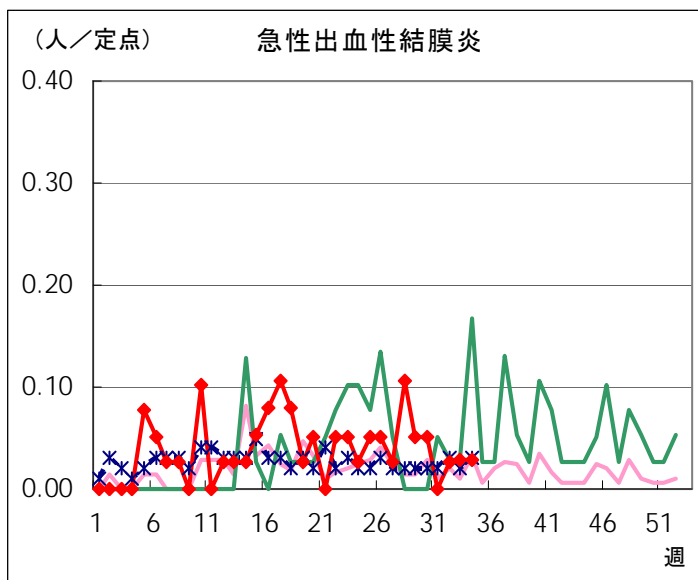




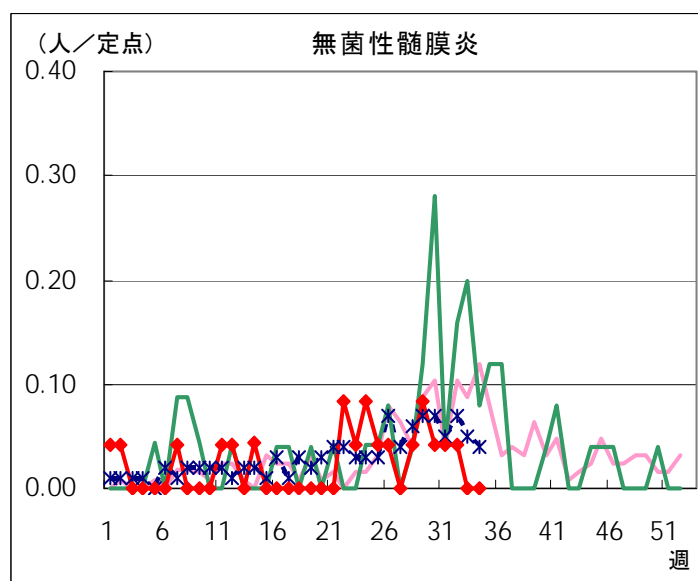
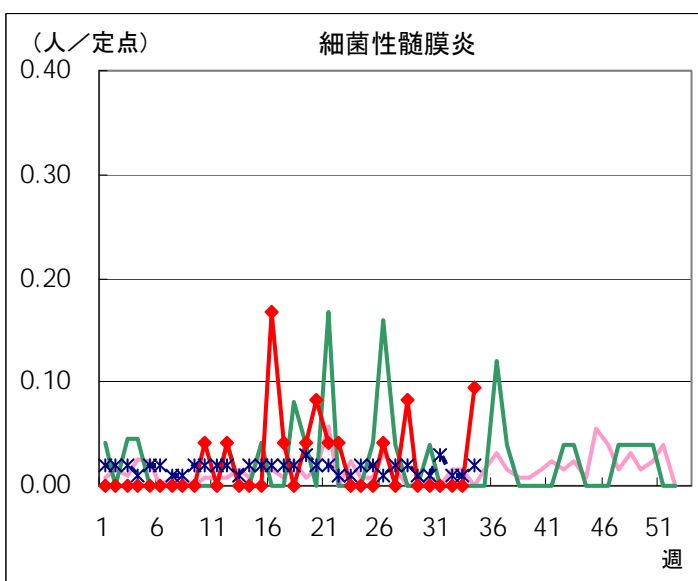
◆ インフルエンザ定点

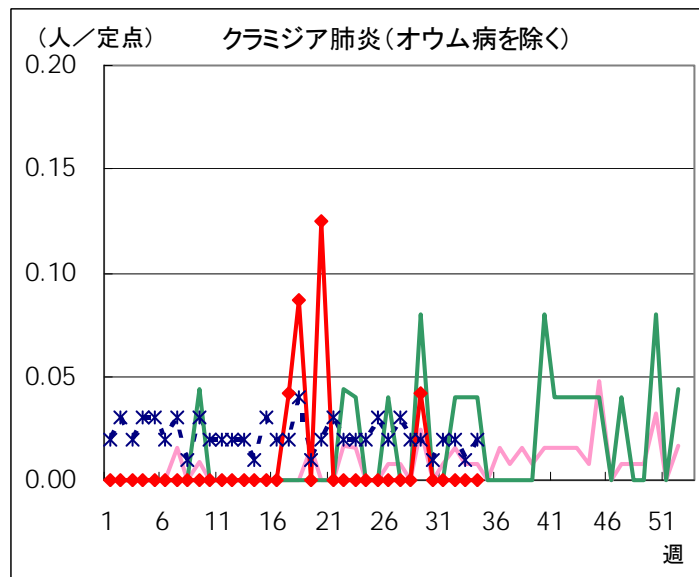
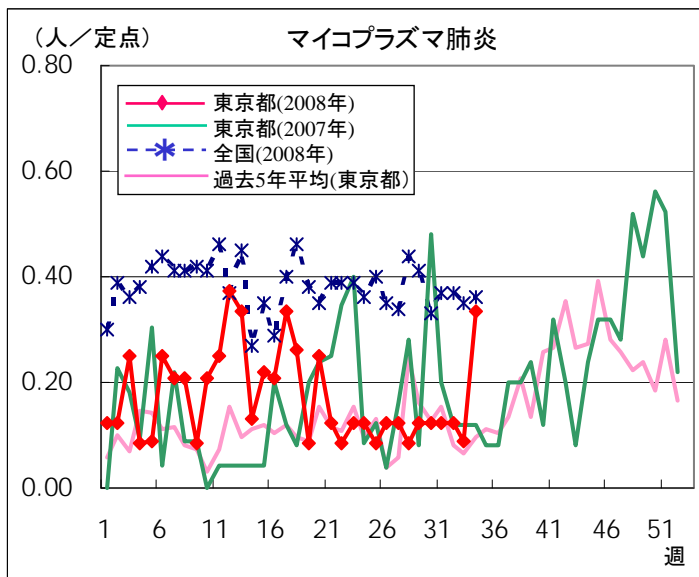


◆ 眼科定点

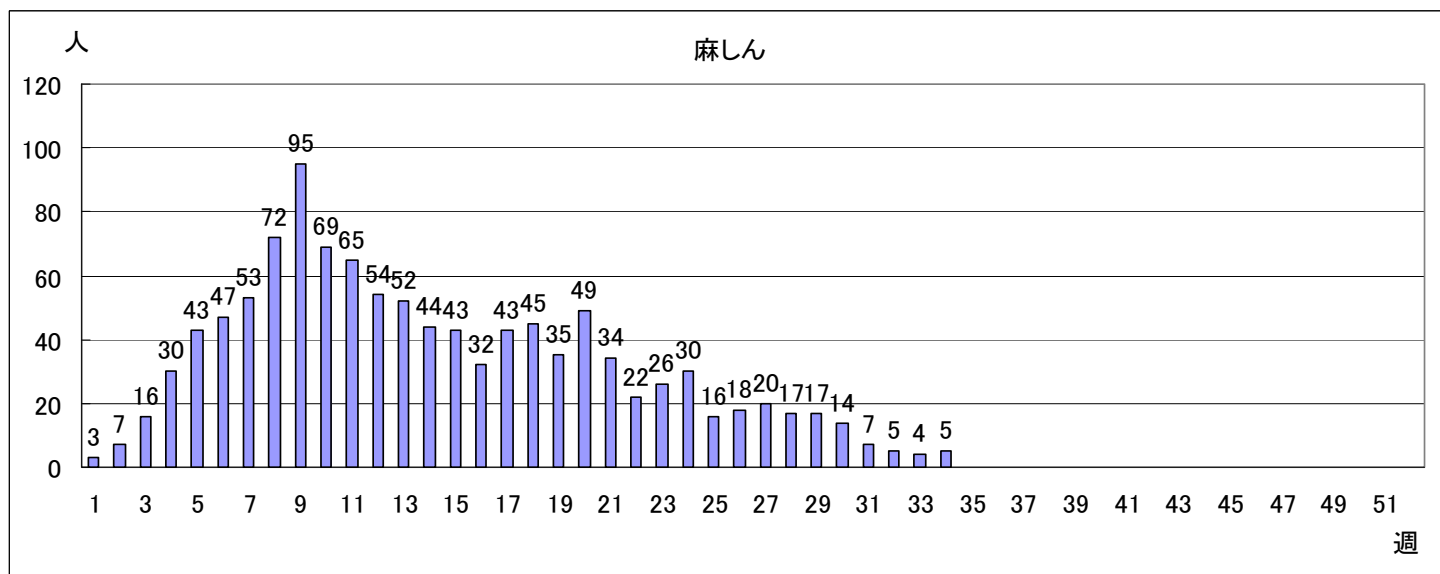


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2008年34週現在



病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
7/22	溶連菌感染症	6	咽頭(菌株)	A群溶連菌T-12型	血清型
7/24	溶連菌感染症	7	咽頭(菌株)	A群溶連菌T-28型	
7/24	溶連菌感染症	8	咽頭(菌株)	A群溶連菌T-1型	
7/28	伝染性膿痂しん	2	皮膚痂皮(菌株)	MRSAコアグラージェV型	
8/6	エンテロウイルス感染症	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
8/8	エンテロウイルス感染症	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/11	耳下腺腫脹	5	記載無し	エンテロウイルス	
8/11	不明発しん症	11M	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/11	無菌性髄膜炎	5	髄液	ムンプスウイルス	
8/11	喘息様気管支炎	8M	鼻汁	RSウイルス	
8/11	髄膜炎	10	髄液	エンテロウイルス	
8/11	上気道炎 (溶連菌感染症疑い)	1	咽頭拭い液	肺炎球菌、インフルエンザ菌	分離同定
8/11	発熱	6	咽頭拭い液	アデノウイルス5型	遺伝子
8/12	流行性耳下腺炎	5	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
8/12	髄膜炎	12	髄液	エンテロウイルス	
8/13	急性胃腸炎	1	糞便	エンテロウイルス	
			咽頭拭い液		
8/13	咳嗽	3M	鼻汁	エンテロウイルス 百日咳菌	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
8/13	口内炎	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
8/13	不明発しん症	5M	咽頭拭い液	アデノウイルス、ライノウイルス サイトメガロウイルス	
8/14	脳症	1	咽頭拭い液	EBウイルス	
			糞便		
記載無し	サイトメガロウイルス感染症 肝機能障害	10M	尿	サイトメガロウイルス	

病原体検査情報 【検出病原体別・週別】

検出病原体		2008年							
		26週	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週
ウイルス	アデノウイルス	6	17	12	5	3	7	2	2
	ライノウイルス	9		8		3	2		1
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス		1						
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	14		14	18	16	25	22	10
	単純ヘルペスウイルス			1	1		1	1	
	水痘・帯状疱疹ウイルス				2				
	ヘルペスウイルス6/7	6		8	6	8	5	3	
	EBウイルス	5		2	1	4	4	2	2
	サイトメガロウイルス	2			1	1		3	2
	ムンプスウイルス	2			1	2	2	3	2
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19				1		2		
	RSウイルス						1		1
	ノロウイルス								
	ロタウイルス					1	1	1	
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3								
インフルエンザウイルスB									
デングウイルス						2			
その他のウイルス	7		4	6	4	1	6		
細菌	カンピロバクター			2					
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌						1	1	
	その他の腸管系病原菌		1						
	溶血性レンサ球菌		8	1	2			3	3
	その他の細菌	1	8	3	7	1	2	1	4
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2008年26週～33週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数	19	108	53	37	69	5	7	9	25	12	2	39	16	2		3	219	
ウイルス	アデノウイルス	7	16	3	4		2	2	3			4	1				10	
	ライノウイルス		3	6					1	3		4	1				5	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス	1																
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス		26	10	10	7	2		14	7		14	4					25
	単純ヘルペスウイルス				1	1			1									1
	水痘・帯状疱疹しんウイルス													2				
	ヘルペスウイルス6/7		3	1		1			2	1		9						19
	EBウイルス		3	1								1	3	5				7
	サイトメガロウイルス			1									2					6
	ムンプスウイルス					3								7				2
	麻しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											2					1	
	RSウイルス			2														
	ノロウイルス																	
	ロタウイルス				3													
	インフルエンザウイルスAH1																	
	インフルエンザウイルスAH3																	
	インフルエンザウイルスB																	
デングウイルス					1												1	
その他のウイルス		11	11	2		1							1				2	
細菌	カンピロバクター				2													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌				2													
	その他の腸管系病原菌																1	
	溶血性レンサ球菌		10	1				6										
その他の細菌		22	2								1						2	
その他の病原体																		

<感染症豆知識>

バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性遺伝子 (*van A*, *van B*, *van C*) を保有する腸球菌 (Vancomycin resistant *Enterococcus*: VRE) による感染症で、五類感染症の全数把握疾患であり、7日以内の届出が決められている。VRE 感染症は 1988 年に初めて記録されて以来広まっているが、全国的にはいまだ検出頻度は高くない。

臨床的特徴は悪性疾患などの基礎疾患を有する易感染状態の患者において、日和見感染や術後感染、カテーテル性敗血症などを引き起こす。ハイリスクの患者は ICU 入院中の重症患者、免疫不全患者、カテーテル留置中患者、抗菌薬やバンコマイシンの長期投与患者および術後患者である。感染経路には院内感染や市中感染があり、院内感染の場合医療従事者の患者との接触、汚染された医療器具との接触などがあり、市中感染では本菌に汚染された食肉の摂取が考えられる。

臨床症状は尿路感染症、敗血症(菌血症)、腹腔内感染などがみられ、コロニゼーションのみの場合(特に便など)は無症状である。診断は各種検体(血液、尿、便、腹水など)からの菌の分離、培養が必要で、ペニシリン、アンピシリン、バンコマイシン、アミノ配糖体薬に対する薬剤感受性試験を行い、バンコマイシンの MIC 値 ($MIC \geq 16 \mu g/ml$) の確認と *van A*, *van B*, *van C* の検出により診断を確定する。本症の治療は分離菌の *E. faecium*, *E. faecalis* とリネゾリド 600mg 静注 1日2回投与がすすめられる。そのほか他患者への接触感染を阻止するため、患者の個室管理も重要である。

(文責 (財)性の健康医学財団 理事長 松田静治)